

令和2年度 第2回登別市地域公共交通活性化協議会 議事録

開催概要

日 時 令和3年2月24日（水） 16:00～17:00
場 所 登別市役所 2階 議場
出席者 別紙のとおり

議事内容

1 開会

2 千葉会長あいさつ

令和2年度第2回登別市地域公共交通活性化協議会の開催にあたりまして、ご挨拶申し上げます。

業務多忙のなか、参加いただきましたことに感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている状況ではありますが、「登別市地域公共交通計画」は登別市の公共交通の方向性を示す重要な計画でありますので、皆さまのご協力をいただきながら策定を進めてまいりたいと考えております。

本日は限られた時間での会議となりますが、進行のご協力をよろしく申し上げます。

3 会議の成立報告

- ・ 本日の協議会委員出席者数は11名。
- ・ 委員の過半数が出席しており、登別市地域公共交通活性化協議会設置要綱の規定に基づき、会議が成立していることを千葉会長が報告。

4 議事録署名委員の氏名

千葉会長が高野委員と木下委員の2名を議事録署名委員に指名。

5 議事

(1) 登別市地域公共交通計画策定に向けた意見について

- ・ 説明者：登別市地域公共交通活性化協議会事務局
- ・ 別紙資料に基づき、事前に協議会委員から提出を受けた意見シートの集計結果を説明
- ・ 事務局からの説明後、参加した委員から意見を聞き取り。

委員からの主な意見

【A委員】

- ・ 課題は「運転手の確保」であり、各地域で採用説明会を開催している。

- ・ 本州方面から室蘭方面へUターンする方に対し、運転手の業務を説明している。
- ・ 路線バスの運行経路については、見直しを定期的に行っている。
- ・ 路線バスの利用者の状況は数年に1度大きく様変わりする。
- ・ 必要な便数を運行させるためにもドライバーの確保は重要。
- ・ バスの利用促進策については各自治体と相談させてほしい。

【B委員】

- ・ 課題の整理として、妥当かどうかについては全て妥当と考える。
- ・ 作業するには順位付けが必要かもしれないが、まずは登別市内において「域内の交通体系の利点」と「改善を要する点」はどこなのかを把握する必要がある。
- ・ 公共交通維持を目的とした運行便数・経路の見直しについて、実際に廃止等により不利益を被るのは利用者である。
- ・ 利用者の声を反映した計画となるよう十分に意見交換の場を持ってほしい。
- ・ 地域によっては、今まで以上に市街地に移動するために充実した移動手段の確保を求める声があがってくると思うので、デマンド交通や乗合タクシーなど、新たな移動手段を確保することも検討してほしい。

【C委員】

- ・ 青嶺高校について、通学ではJRの利用が少なく、ほとんどがバスか車での通学となっている。
- ・ 数年前に専用バスが朝1便減便となった。
- ・ 減便に伴い、1台あたりの乗車人数は増加しているが大きな影響はない。
- ・ 地域が元気になるには、「若者が登別で活躍すること」がとても大事だと考えている。
- ・ 市内の高校に通学しやすい公共交通体系を設定してもらえるとありがたいし、高校生の市外流出を防ぐことができるのではと考える。
- ・ 全ての利用者が満足することはできないと考えるので、ある程度ターゲットを絞って取り組むこともひとつの手段であると考え。
- ・ バスがメインになっているが、JRの利用促進も検討する必要があるのでは。

【D委員】

- ・ 高齢者が運転免許証を返納することがこれから増えていく。
- ・ 今は自家用車を運転できるから通院や買い物の際に困らずに移動できるが、運転できなくなったときのことを検討する必要がある。
- ・ 市街地から離れた地域に住んでいる人たちが通院や買い物で移動するための交通体系を検討する必要がある。

【有村副会長】

- ・ 将来的にどのような方が移動困難になるのか把握する必要がある。
- ・ 人口減少にともない、将来的に移動困難者が減るから問題ないというのではなく、人口減少に伴い、バスの利用者も減少していくことが見込まれる。
- ・ 室蘭市では道南バスの市内路線の効率性などを調査している。
登別市でも今後同様の分析をすれば、どの路線が効率的で将来的にどのくらいの利用者がいるか分析できる。
- ・ 室蘭市と生活圏が同じであり、交通結節点やフィーダーを将来的にどうするか、など、協議会間で連携を図り、課題解決のために協力をしてほしい。

【千葉会長】

- ・ いまお話をいただいた他にも多くの意見をいただいているので、地域公共交通計画の策定の際に反映させていきたい。

(2) 登別市の公共交通に関する動きについて

① トヨタ・モビリティ基金を活用した登別温泉地域における地域活性化に向けた新モビリティ運行について

- ・ 説明者：日本データサービス株式会社
- ・ 別紙資料に基づき、事業の概要と今後の予定等を説明

【有村副会長】

- ・ グリーンスローモビリティは地獄谷まで行かないのか。
- ・ また、難しいかもしれないが、時間を決めて極楽通りを歩行者天国にするなど、コンベンション協会と連携し、歩いて楽しめるイベントを開催すると面白い企画になるのではないか。

【日本データサービス株式会社】

- ・ グリーンスローモビリティは地獄谷まで運行することを検討している。

② JR登別駅を発着するバス路線の乗降調査について

- ・ 説明者：日本データサービス株式会社
- ・ 別紙資料に基づき、調査の概要及び調査結果を説明

③道南バス株式会社が導入するバスロケーションシステムへの補助について

- ・ 説明者：登別市地域公共交通活性化協議会事務局
- ・ 別紙資料に基づき、バスロケーションシステム等について説明

④将来的に自家用車の運転が困難となる市民の分析について

- ・ 説明者：登別市地域公共交通活性化協議会事務局
- ・ 別紙資料に基づき、分析結果等を説明

【千葉会長】

- ・ 今後も情報収集等を進め、地域公共交通計画の策定などに反映させていきたい。

(3) 白老町で運行している「元気号」登別延伸の見直しについて

- ・ 説明者：登別市地域公共交通活性化協議会事務局
- ・ 白老町から預かった書面を口頭で説明

【説明の概要】

- ・ 昨年11月に虎杖浜地区、竹浦地区の町内会連合会より「元気号路線延伸（登別市）の陳情書」が提出され、陳情者の招致や町からの状況説明、委員会での審議を経て、町議会12月会議において、陳情が採択された。
- ・ 町では地域住民の想いや町議会での陳情採択を重く受け止めており、地域住民の「日常生活における生活圏への移動手段」を早急に確保・充実させる必要があると捉えているが、延伸を含めた元気号の改正時期を4月以降に先送りし、改めて手法などを検討することとなった。
- ・ 関係各所との調整、協議を進めていきたいと考えており、改めて本協議会の場で情報提供や協議を行わせていただきたい。

5 その他

【千葉会長】

- ・ 最後に有村副会長からひとこといただいてもよろしいでしょうか。

【有村副会長】

- ・ 2000年から2020年の20年間と、2020年から2040年の20年間を比較したとき、2020年からの20年間で人口減少が倍の速度で進んでいくこと真摯に考えていかなければならない。
- ・ 函館地区では将来的に30%程度、移動の総量が減るのではとされているが、同じようなことが他の地区でも起こることが考えられる。
- ・ 守るべき交通網は守って、それ以外の箇所については新しい移動手段を検討していく必要がある。

6 閉会

【千葉会長】

- ・ 以上をもちまして、令和2年度第2回登別市地域公共交通活性化協議会を終了させていただきます。
- ・ 本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

以上